

ほっとニュース

発行：特定医療法人 一成会 木村病院 / 企画広報室

特定医療法人 一成会 理念

みんなの元気のパートナー



トリアージをご理解ください



特定医療法人 一成会 理事長・木村病院院長 木村 厚

木村病院は災害時医療救護訓練を2009年10月24日(土)に行ないました。

これまで2005年から毎年行なってきましたが、昨年と今年は近隣の方々のご協力を得て行ないました。今年は、町屋1・2丁目仲町会9人、稲穂睦会6人、尾久消防団14人、荒川更生婦人会11人、尾久消防署1人、計41人の方にご参加頂きました。

今回は、大きな地震により、大規模災害が発生して、多くの負傷者が当院に殺到するという想定です。起きては困る事態ですが、最悪のことを想定して、訓練を行なうのが危機管理の基本です。

まず、災害対策本部を設営して、院内の患者さん・職員の安全確認、建物設備の点検確認、水・電気・ガス・電話などのライフラインの確認と報告を行ない、その結果、診療可能であるという前提で訓練を行

ないました。

災害時には重傷や軽傷の方々が混在して来院するため、パニック状態となることが予測されます。このため病院の入口でトリアージを行ないます。トリアージとは、どの患者さんが、どんな治療を必要としているのか？更に、迅速な医療を必要とする患者さんなのか？を選別して治療の優先順位を決めることです。自分自身やご家族、近隣の方々で対処可能な軽傷の患者さんは、当院の医師が主治医でも、院内に入ることができません。これは、当院の現存す



本部に被害報告をしている様子

る限られた医療スタッフと医薬品等の医療機能を最大限に活用して、可能な限り多くの傷病者の治療を行ない、1人でも多くの命を救うために必要な事です。患者搬送、病院選定、治療を滞りなく行なうためにも必要な作業なのです。災害は地震ばかりではなく、電車事故・台風災害・化学テロ等、様々あります。このトリアージの主旨をご理解頂き、いざという時にはご協力をお願い致します。当院では、地域のみなさんと連携を図り、毎年訓練を行なっていきますので、多くの方のご参加をお願いすると共に、ご意見、ご感想をお寄せください。最後となりましたが、ご参加頂いたみなさん、本当にありがとうございました。



災害時医療救護活動

災害時の医療救護活動では、
現存する限られた医療スタッフや医薬品等の
医療機能を最大限に活用して、
可能な限り多数の傷病者の治療に
あたる必要があります。



一次トリアージゲートの様子

災害時の混乱している中で、トリアージを行わず、通常と同じように受付順で治療を行なった場合、助かる重傷者が長時間放置されたり、呼吸停止状態の人を治療することで貴重なスタッフと医薬品等が使われてしまい、確実に救命可能なほかの重傷者の治療ができなくなることも考えられます。

こうした問題を解決するためには、救命の可能性が非常に低い方よりも、治療によって救命できる可能性の高い方から順に救護・搬送・治療にあたる必要があります、その優先順位決定作業であるトリアージが必要となります。

周囲がパニック状態になっている災害現場で、迅速なトリアージをするためには、訓練を繰り返し、より短時間で確実に実行できるように、向上を図ることが重要である、と私たちは認識しております。



医療機関はもとより、地域の方々、
救急・自治体などの理解と連携によって
尊い命が救われるのです。



担架搬送訓練の様子

普段から災害時に備えて準備をしましょう！！



活動とトリアージ



医療トリアージの様子

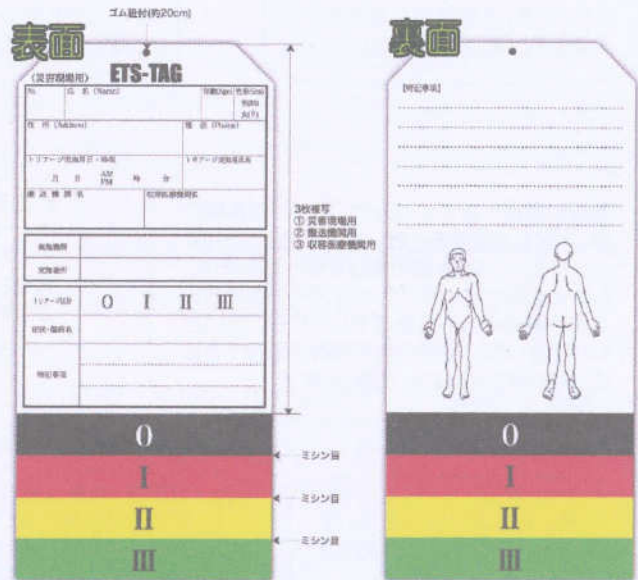


医療トリアージの様子

右の図は実際にトリアージの際に使用する『トリアージタグ』です。

トリアージタグの不要な部分を切り取り
トリアージタグの先端にある色で
傷病者の状態をあらわします。

一般的にトリアージタグは
傷病者の右手首に付けられます。



呼吸停止状態であるもの

生命を救うため、ただちに処置を必要とするもの

多少治療の時間が遅れても、生命には危険がないもの

上記以外の軽易な傷病で、ほとんど専門医の治療を必要としないもの

治療優先順位

4 位 無呼吸群

治療優先順位
1 位 重症群

治療優先順位
2 位 中等症群

治療優先順位
3 位 軽症群

災害時医療救護訓練にご参加くださった 地域の方の声



初めて訓練に参加させていただきました。院長先生をはじめ、職員の皆さんが真剣に取り組んでいらっしゃるところから、トリアージ訓練の重要性を感じることができました。また、地域住民を巻き込む事の必要性も実感することができました。有難うございました。そして、訓練を準備し実行された皆さま、本当にお疲れ様でした。

今年は去年に比べると、きめが細くなったように思う。特に消防団の搬送は具体的な訓練になっているように思えた。昨年は2回同じ訓練を繰り返していたが、1回でよいと思われる。

ケガの重さにより、医者が判断することによって、助かる命の重さが今回わかりました。

去年より本格的になり、安心できるようになってきました。

前からトリアージに関心がありました。本日は参加(体験)でき、勉強になりました。木村病院の皆さま、大変ありがとうございました。

参加できて、本当に勉強になりました。本日のこのような訓練に一人でも多くの方に参加できる機会があればと願います。

年1回でなく、年に何回もやったほうが良いと思います。もっと町の人、いろんな人、たくさんの人にこの訓練に参加していただきたいと思います。

実際に訓練に参加してみて、本当の災害時には、大混乱が起きると思いました。従ってトリアージをもっと認識・協力をしてもらえるようにしなくてはと思いました。トリアージのできる人を民間の中からも養成してもらいたいと思います。また、地域の病院機関が協力できるような行政の考え方もお願いします。

とても勉強になりました。一般の人でもトリアージの知識があると災害時に協力できることがうれしく思います。

重傷者の付添人への対応をどうするのか？トリアージをする人にプレッシャーをかけてくるような気がする。けが人への対応より大変な気がする。

災害の時は役に立つと思います。まず、あわてず行動したいと思います。

先生方、大変ご苦労様でした。今年も良い勉強になりました。災害時の心構えをしっかりと身につけたいとの思いを新たにしました。有難うございました。

木村病院さんの角から入ってくる車の多さにおどろきました。(逆の意味として搬送しやすい立地で良いと思います。)その分、交通整理にも十二分に配慮していく必要性を感じました。

消防団の方々に応急処置の実演をしていただきました！



担架の使い方



三角巾の使い方